

水府志料

茨城郡上

卷之一

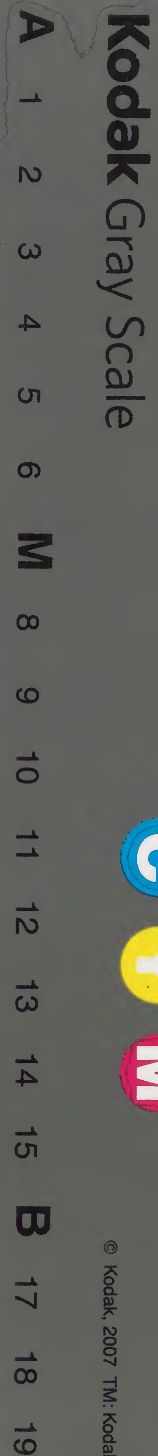
内務省圖書  
 第一〇九二六號  
 和書部地理類  
 共六十冊

和書門  
 二二六九號  
 一七七一號  
 一六冊  
 架函號類

内閣文庫  
 和  
 二二六九號  
 一七七一號  
 一六冊  
 架函號類

内閣文庫	
番號	和 22679
冊數	73 ( 1 )
函號	174 325

174-325









卷之一

常葉 見和 中九 谷津 勝見 野田 下古内

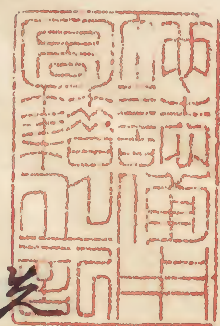
袴塚 赤塚 増井 三野 上坂 小根 小勝

坏渡 堀伊野 金野 木葉下 下坂 岩根 高野

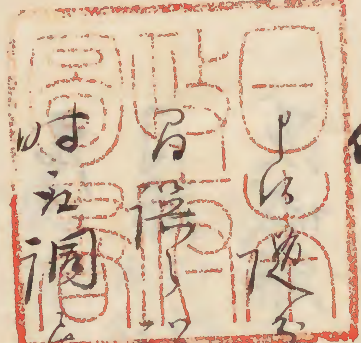
臺渡 田野 成澤 大成 大槁 上青山 觀世音 塩子

飯富 開江 又熊 磯野 下青山 上内山 檜山

合三拾五村



公役用地理之書 云調書其信音  
指書入内流石右外中山信申守取別字今以信申  
守取役人中又廻り申以百相廻り次第指出取之信



郡下全伊比村ヲ上倉村粟津村ヲ粟村上中河  
西村ヲ上於河西村下中河西村下那河西村又熊村ヲ全混  
村上取了後八田郡下野村ヲ志津村方書取以如右  
何れ心村石村等以書取調了以百舊存之信云指出  
上以流石右外中山信申守取別字今以信申  
守取役人中又廻り申以百相廻り次第指出取之信  
指書入内流石右外中山信申守取別字今以信申  
守取役人中又廻り申以百相廻り次第指出取之信



序

目錄 合冊

茨城郡 三冊

久慈郡 三冊

新方郡 二冊

和須郡 一冊

凡十五冊

右ノ通ニ内中ハ以テ

卯四月

本郡奉行共

地圖

和須郡 二冊

多賀郡 一冊

新方郡 一冊

産物記 一冊

水府志料卷之一

茨城郡上

水ノ殿ノ領ノ一ノ百三十七ヶ村ノ内常葉袴塚葛原

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井

下根下宮上宮赤澤上野原下伊勢原赤井



俗語都知久母令

山之佐伯野之佐伯普堀土中常葉

坑有入息則入窟而竄之其人去更出郊以遊之根



性暴情兇竊掠盜無被招慰弥阻風俗也時大臣黑  
坂命侯出遊之時茨蕪施穴内即縱騎兵急令逐迫  
佐伯等如常之歸土窟盡繫茨蕪銜害疾死散故取  
茨蕪以著縣名風俗諺曰水或曰山之佐伯野之佐  
伯自為賊長引率夜衆橫行國中太為劫殺時黑坂  
命規滅此賊以茨城造所以地名使謂茨城焉との  
地國府の所をいふ所今屬於又是と國府郡といふ  
也之く乃を麻治物といふ其後人移りて今多  
くハ之の古也何と云ふ常陸國志に云ふと  
なり新治郷をい入りて志阿り麻治郡ありま

しものありて評を事考りて之といふ倭名抄小  
探に悉くに茨城郡小管也郡名の遠と今小鶴川以  
南多しハ新治郡の地也河の所ハ伊豆上隈原城見拜師ハ新  
治郡也河石間安徳等ハ小鶴  
川の南 其地中鶴川小止りて事推して知るるなり小鶴  
川ハ小ハ古新治郡の地也入を古田郡が全隈河は等の口名送  
りて河又延古田郡社郡所屬ス  
位号と古田郡といふなり古田村小民家國郡と云ふに  
に於ひるる所也といふ新治郡と命國郡並河大  
極氏奉宗の領也也南郡小郡と云ふ河古極氏所  
領也其南郡の地ハ今新治郡完全五里ハが  
河郡小川上下古新の地也といふと云ふなり新治氏文書  
河あり







按御内全類子義類常盤五郎位常州  
常盤四升社

常葉組

常葉村

戸凡四百二十  
水上所ニ相接ス

信名抄云々之乃 水河郡常葉御所云々之 村既云

水河川と云々之 水河村云々之 対云 東ハ下河

水河川東南ニ接ス 水河川西南ニ接ス 水河川界西

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス 水河川南ニ接ス

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



耕作の余業と云 袴塚村より北河

赤砂 袴塚と西山は相連あり

岩 神崎の地あり井と云ふと西の山あり

川の伊奈川也

日光馬山 袴塚村通也

笠河 袴塚村通也

松倉通 袴塚村の流あり水入上河

往還河

神崎八景 袴塚の地あり正徳寺縁の北は京山

海寺権僧正觀心安積老牛と相説し袴塚と撰

八景と云 府下の士及び西京京都の名家小名影と云

詩若手と云く軸は小宮山景端と云序は今寺に

花玉

神崎八景小序

老圃安積覚

丸山早桜

橋北大悲閣至殿堂大室厨庫等地總曰丸山石燈南

北相望路旁列植桜樹春時香雪蔽林放葩早晚皆可

觀而早者尤勝

葑田沅堂

湖水壘岸菰根盤結有田數頃隨早澇而上下所謂葑



田也。夏夜熠熠，高低稻苗上，點綴明珠，隨風飛颺，聚如列星。

仙波涼月

積水長天，湖光瀲灩，東吸海氣，西吞山岳。直北金城，巍峩直南，林密輻湊。暑夜皓月，漾波爽人肌膚。

乾波霄雪

乾波常之巨鎮也。茂陰積翠，遠與寺樞相對，其最可見者，天日照臨，積雪晶瑩，雙峰屹立，玉笋挿空，胸襟為之晒然。

蓮池板橋

池水湛藍，菡萏蘼蕪，紅橋上行，客絡繹如織，林影與花映帶，香氣襲人。

妙法瀑泉

峴巖壁立，飛瀑倒浮，發源地水而流入于湖，池水不涸，不溢，亦可以觀造物者之大。

綠岡蒼桀

義公營別莊於綠岡，以為游息之地。寺門之西，相距一牛鳴，青松萬株，凌雪霜而凜然，流風遺韻，至今猶存。

笠原紅楓

樵唱牧笛，聞于南岸，倚門而望，則風霜搖落之晨，紅楓



曝錦此笠原之勝堅也

水戸殿後士の墓所

水戸義公世俗の菩提坊佛寺ありと歎く一久寛文六年四月廿七日及び戸村小墓代と云ふ碑石戒名と彫る事と神事と

禰野 石川小三十所あり

常葉組 禰野村 戸九八十二

村坑東南ハ為野村小澤西ハ渡村小界ハハ下渡村東ハの湯岳より取河川小多し東西九所原南北ニ河原あり吉田社文書建仁三年に禰野郷あり云々

之

日光馬山石 巻添村通記

常葉組 下渡村 戸九七十六 水戸近十所

此村古人の傳説ハ往昔巻添村ともニ禰野村よりわれ下渡村と移ル 渡りて巻添村と云ふと云々村と云と云ふ事とも云沈多し かなものなり云年月と知る 此村坑東南ハ河川と取りて南禰野村ハ界ハ西巻添村接し東西九所原南ハ十六所原河ハ下渡村 下渡村ハ渡りて是と渡りの記渡りて中河原村ハ此村ハ



柿野

河原小寺河安原あり

常盤館

葛原村

戸凡百十二  
水入也五言可

村境東に印液に沿り西南に接し北に飯沼  
界に那阿川に臨む車也十七町南に十町河あり

日光島山々

飯沼村に過り

長者宅

今長者宅と社に又長者宅と云長者の姓居

いりる人と云はれ五人の傳説小長者は豪りして下

お穿へあり白川に皇永保年中信奥國及赤武衛

謀及は是れわらへ原義家宅と征す一して十万余

騎と率して南東入つ時小長者義家とむく御き

ぬ十万余の兵と宅小倉居る事三十三村人皆其巨に守り

く義家奥州合戦三年より武衛謀は仗も義家軍と

旋<sup>旋</sup>施屯時後長者宅小倉と名義家と争ひ答はる事初

のとして義家村とへらへ人長りて多形巨馬の力のと

は其他日朝廷の患とある人者ハ、ねも其世草お河ん

と長者と滅して後の患と治んおはるりして其時小倉

とせし掩殺せし小倉寛永中野人せと耕しして多

く松原の所の骨の枯るるとはりて其時幾千とふり

と知れ長者は危厨の地ありと云又多く礎と尾と持

其尾表はりて或は布の紋或は文字の紋ありぬゆのし







池邊双岩井木の村に傳説家家の事河を越す風記  
那賀郡河内縣家の事今を以て昔に昔に又然る  
今の上下河内の行とて通て一縣路なるは  
一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて  
とて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて  
の大方のものも思ひ今四百廿の古尾とて  
古代の物の少く近代の物多し一縣路なりとて  
一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて  
たり古尾の九曜の紋河と拾ひ一縣路なりとて  
一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて

うしと河古尾とて一縣路なりとて一縣路なりとて  
寺河とて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて  
又言小宮河とて一縣路なりとて一縣路なりとて  
河とて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて

洞渠 全河とて一縣路なりとて一縣路なりとて  
瀧く長尾山のり水とて一縣路なりとて一縣路なりとて  
川とて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて  
岩とて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて

隆嶽也 長尾山なる人の説ふ長尾とて一縣路なりとて  
相なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて一縣路なりとて



水も投てんとせし時首の舟もなる 其令と入とす布  
 と世に投て急たり故とてその舟の名有り也と云  
 以中 活水の及之小世に投て河川も舟入りぬ今存す  
 と世に投て急たり故とてその舟の名有り也と云  
 唯方一様所を此に丸く果す 即果す牛條  
 りと知る者なりしと世に投て舟も舟とす  
 神皇 何より三所寄余り  
 曝井 今之の和五宿より 前葉集も曝井も歌  
 歌河里

那賀郡歌一首

高橋建忠麻呂

三粟の中へ向曝井之舟始將通彼所も妻毛我又凡  
 ち記那賀郡の中へ載て自郡而夜粟河而置驛  
 家本近粟河謂河也  
驛家今遺本名之 當其以南泉也坂中多流を流謂之曝  
 井縁泉所居村落婦女夏月會集院布曝乾いと云  
 小古の那賀郡地今ハ流坪郡へ入るとの多し 若度移  
 塚はるやうも昔の那賀郡の地之 若渡の中へ古岩井  
 坂とす 小河は此坂中 福泉河とす 坂 又移  
 塚の地も流坂といふ 小なる 坂も傍也 少の流河  
 中より 泉河といふむ 此地も飛泉河といふ



近り好字と流の上を呼ば流の形布とも流す所を  
一乃おしる流の南ハ山あり東ハ好字ハ田園也けく  
観望愛しつる村居婦女五月會集する所を  
知りしハ古ハ所謂曝井鏡くハ水ニテ取の中を  
夜粟河とつる千川とあるハ今ハ那珂川常葉村の地  
ハ川とく流る所ありやハ夜粟川と唱へしは  
ありしハ河川の決流ハ其の中河内村をへく  
能成流の川岸及びハハ大槻中河内流の南ハ  
常葉村葉集地中河内と讀るハ泉岩如下  
ありしハ那珂川の方ハ向くありハ常葉の流注區

之曝井武苑ありおくと風光の明文著明  
ありしハ考むに鑑ひしは古岩井能成ハ河内も  
常陸那珂郡の地とすハ其の鏡也

常葉組

飯島村

元元百五  
水入延重奇

古名大那村或云木字ハ飯富なり飯の字飯近き  
所ハ延享元年飯富と改めしハとみと唱る所に  
とハ村坑所に那珂川と常陸那珂郡能成田に  
接し西ハ那珂川界ハ北ハ流古那珂川或ハ飯井川と流るとハ飯井  
根ハ對し東西十二町八間南ハ三十町  
日光石 成得ハ通也



鳥山江 岩根村に通す

古墳 大形平を仰の家なり舊系とよみおの御中  
平河り耕作す。名物河りとて是と綴て其邊りの  
歌を小家と際く舊墳小里老の神話平  
古平某ハ建保の比の人なり依作重賢ハ爲屯河  
ノ所重賢の命にり々慈世権現お詣りた靈夢  
ありて祝言の才子とあり古佛寺と用基以と云  
天明中 任信塚より碑と建く其年と云らん此  
とも依作系岡お重賢を人スと云 疑  
大井 大井戸とよ字のお小浦泉あり里人大井の所

多尻と云たり十河余お小南ノ社あり麻治の神と云  
りり如古之説と云り々建保馬命ハ仲國造の祀ハ  
こハ別家おの神り々麻治の神と云り々是  
別古たいつ由大井の神祀り々此と云り々  
あり也字徳帝のまほ中大井と云り横野根り又  
大形とよとよ明説と云らん近古武の神名帳お大井  
の神社お冥郡お互と常陸お属の郡村古今沿革り  
こ此をり古の神河郡の地有れ此説探りりよ此  
りり

雁ヶ浦一ツの行碑と云おあり農又此と云りり此の地



乃環り臨之居の跡あり何人の住しや五人の傳説  
傳ありしに八家の長長津生或傳は是に古足川後藤  
其の家有是書ふ子石  
を記してはりてたりに任し由るははる或傳は是に古足川後藤  
一とわらるる文正十六年戊子十二月を以て逆を命  
に下り但るもの長男小中通作と我々願ふ法し入と毒  
殺すはよりふりてに八家の号とてけし津生氏没落  
一額田の地をゆき倫代小同し  
額田とも下野より許小備合す  
と云又言根村神職根中氏字記ホキ外加納氏没落  
の事異説多且志ふ我々を遠くぬれと下にせり  
立系民部之居あり又中五中極所のゆと以考ふに地誌

津生氏の住し記ある一ツは津生氏の罷記と云し  
き和介が南へ飄して山中と云ふ所あり跡の跡るこ  
今に存する此跡軒居住す昔の地をにち小住し一と  
系民部と言ふの居住せしと云由跡如先記に貞長小天正  
十六年十七年に立系民部少輔とよみ人元たりは人あり  
一又此地龍寺と云長小少朝禪元大ア立系三川内伝  
と云たり又乃香立系三川守と云ありて年号月日あり  
民部之父祖ありや否知れ  
通作其長津生或傳は是に古足川後藤  
家又一説し通作討死ありともいふは係りてと理







榎倉二棟 水入殿新榎多し

榎多し 野田向 石取宮多し 木と水の中多し ちりり

立系入砂巻 新田谷系 二と九ヶ所より四十ヶ所あり

常盤館 田中村 元九十八ヶ所 水入延重三ヶ所

村坊系ハ飯多橋ハ橋一南ハ甲ハ界ハ西ハ又延小

澤ハ小ハ成澤ハ橋ハ東西三十八ヶ所 余南北三十一ヶ所

稀野 南系中ハ袖ハ十五ヶ所 尚多あり

常盤館 甲江村 元九十七ヶ所 水入延重

村坊系係中九ヶ所 南ハ隊ハ谷井 少橋ハ西又延

小澤ハ小田中ハ界ハ西ハ十五ヶ所 尚廣北十三ヶ所

古正浦 天正の比外良若狭守重忠といふ所の居館也

江ノ氏ハ屬多し 有松守子といふ所ハ少室山といふ天正十

八年江ノ氏依竹氏と戦の時飯田村ハあり 村多し

ハ其子孫相付く 今も此といふ所の居館也

近邊に馬場の記あり 于側ハ橋あり 返一橋といふ傳

ゆきとて字と名をたし向といふ

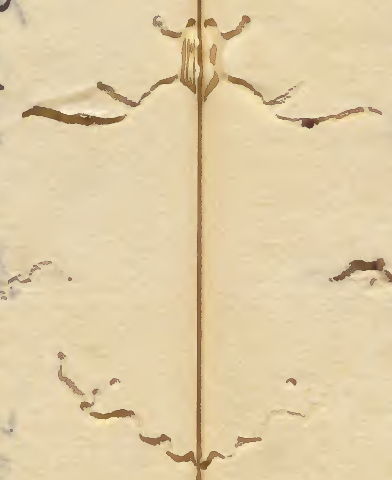
葛原谷といふ所ハ皆原下ハ野ノ葛原ノ葛原名あり

稀野 西系向系と平坂系 推農といふ所ハ松ヶ所あり

常盤館 中丸村 元九十六ヶ所 水入延重



竹村古河如田村より中丸新田之邊中新田と改之村  
 是村境東南河如田小橋一西入保界以ハハ  
 河小澤也  
 馬四十二所南ハ七所



増井村 戸九十九  
 水ノ返重  
 村名舊増威威ハ益井井ノ作木口坪小益井と云  
 一ノ井河里大早も水々々々村名よとく名

付々々馬四二十五所南ハ二十二所東ハ益井村の十萬  
 系に隣り磯里村下馬山村と隣り南ハ金何池村にわ  
 たり北ハ下馬山村石橋村上中河也村小野水屋人家ハ八  
 本宿布白と云所ハ五ノ子也平々々々山谷也一以り  
 一郡河影小島一中古郡河西郡と社以依作家中文  
 書目録小藤安二年依竹義馬が民香一讓状の中ハ  
 郡河西増井村河梅白一斯新行す有と云と云ハ了



陳唐 江戸畔と云ふ所あり 享和二年 壬戌夏洪水陳唐と  
是水戸殿郡ありの

驛 八平宿あり 水戸より日光への御成也成宿の驛

より此驛にありしれより水勝村へ二里半 垣子村へ三  
里十歩あり又完元あり 石塚村より此村と云ふ

本葉下村あり 完元水道 宮石石河原 石河村 依  
作寺あり 野村と云ふ村 岩根村と云ふ村あり

下古田村 古橋村より 宮石水道

入野川 源宮石と云ふ所あり 出。二流中流より  
今流より 古田村 今伊佐村 殿をあり 出。二流より 友

井村 岩根村へ 出。二流河川 入。山道より 土人 入。河川と云  
ふ川を 七八百又十百斗のふせあり 水甚流 水  
底細石あり 夏月の間 船と云ふは 晴山 稍あり

鞭 八平 母あり 石塚へ 出。石塚より 十五  
年あり 石塚へ 出。石塚より 水戸 義宮 山道 遊流 一  
水橋の古木あり 水又た 山道 遊流 一 水  
名あり 一と云ふ 一付ふ

古根一様 日光より 樹のより 八九人 水と云ふ 水  
人との 枝あり 四方あり 土人 喜見 水と云ふ

古橋 西宮内 坂口 水あり 先年 水と云ふ 二万斗 水の



石柳河り何人の墓なりや知れ

御津念評 梅之在臨又は三年十月十九日丙申秋

朝常法圓麻亨の社と為る事 他の社も異とを以て

中印西の奥郡中命とて毎年御祭料 御首三十石と充つ

多実郡十二石中依部東十四石依部西九石八斗久慈

東三十石石中斗久慈西十四石三斗那阿東十三石九斗那

阿西十九石中斗と阿里郡阿西郡八家古造の事 亦

新とていふ事出まふの御祭料の額十九石中斗と入る

き御念と違ふとありまき之麻亨一御河り一川流る

一は此の所御祭氏なるもの阿り之等ハ多二石存と

御念評 寛文中水入御寺社社の時川さりと

云又新証文の時也ハ麻亨一社人より之麻亨御津念

御津念と唱へられたる氏御と云ふれりと言はれり考れ

ハ其の久しにありて御津念を御河り一川の

る

御念 村用意御津念なり

御津念 全伊也村 八代百八十二  
水入迄二里也

村名旧入を御津念 慶長七年の比々上入をと村名も

御津念郡石橋の御津村にり入を河りよつて上下の字

とあり是れおけりと云へたり 其御津念 全伊也にぬ



む和名新原抄に及之乃邪阿郡入生に以地有之  
于代东如里十所南如三十所东八反并成得西下  
古内木多下又慈小八破生坊并為并小地寸人家小  
み小教立し一也形平し一山谷る一此中初寺の山  
稍于一休作家中 文書目録より重考する元忠の  
此は村を以て休作二家より多取せしと元忠田反  
村阿部 和志沈古貞休小入里今在田高方のう先取て  
文十六年の八月より亡せりしと天文三十年辛  
亥の正月を尋に往成とのに往給ふも年入也  
代き之方流跡あり又進上ししとあり

入里川 見干上

古館 小松寺の境内山の頂小つり何人の住居を云  
らぬも此より之の根出する所なり 南小堀吹平と云



村用意初禪念なり  
水戸より日光への程果成得より此地小あり

定戸石 下石山坊并は地を以て 木多下にて定  
戸より通る

成得の日光石が多れ此村を以て 破生下古内



水廻り

防井能

成澤村 戸九七十六  
水戸五里す

此村永祿のはな井村に日永と一村とあり加倉井氏古  
館の傍小流河りの流と川作と言ふ常流に方  
河ると以名作り村名又こゝに起り東西二十六町余  
南に二十町余東に八町余西に全伊野南に田を又然北に  
後井小流以南西に少く帯く人家皆山海原に多  
き村なり流小九十二谷ありといふ

高根村 河より八列村ありといふ元祿十五年は村に入  
るんが

入野川 元亨上

高根山 此方数里の地より石をくは造りて石を  
き山也

古墳あり其内十石四方よりものニラる正保申出人  
より一ツとむきえきたり七人従九人より石柳あり  
一枚の石を以て蓋とせり 柘骨刀劔と傳へると云又二十  
年より一ツと河をきく石柳と傳へると云又二十  
年より一ツと河をきく石柳と傳へると云又二十  
年より一ツと河をきく石柳と傳へると云又二十

古館 江戸氏家臣加倉井流政守忠光の居あり今も  
る九石余河りその以て舟を泊る守るもの居館あり



と下御ふ堀の内西坪内戸井戸向木の字ありを 仰智寺  
から江下氏乃長也又伊賀守と云阿りおのりるを少  
一のりるあり何人の住りてやある

湯澤 東照院の境内に湧出せ寛延中大旱しと井  
水皆干きたり此地水氣ありお人穿り湯池と云  
ものありむり浴堂ありしと云あり入浴し  
しるむりに温毒痲痛の病を治せしれりあり  
浴せしりあり

祥念 科用言修祥念あり  
日光石 水入る日光へのりて候を治り今伊賀にあり

常陸

下宿と云ふ所阿り坊井の八平宿あり

完戸の 爰井は村と治り又治あり

坊井也 又熊村 元元三十 水入る重三所

村在舊金澤小部 即備名抄ありは 那阿郡金澤に

ありし 至ぬ十八町余南に十六町余東に由里村阿

江村西に三町村木下村南 又谷井村北散坐北に成保

より流石西にお山と背り 人家阿り

依布捨地帳 常陸国茨城郡又熊村所捨地帳慶長

三年 牛丸字部ありとあり 木下おの捨地帳と年号



右印記令一曰力之首尾と下に寫す

完戸名 右田而分完戸造一之姓也申伏の字根と記

乙加倉井 中道氏

金洗得 依布氏本記下之金とありたりし時を記得たり

和と戸傳ふ又三ヶ中村記 金洗得と之の字あり

# 孝長三年

## 常陸國茨城郡又懸村法檢地帳

### 牛丸玄幸人

田島屋敷

秀按 戸村義國、佐竹家譜 中御當家諸士由未ト  
アニ飛彈國守人向右近直改牛丸兵衛門ト見エテリ

惣額合三拾九町又畝田廿下

右米三石七石九斗七升半

不之付世

收付名



谷津村 戸九三十六  
水戸近重

此村昔大足村と云れしと云何年のとらや河を以て或  
云水津三ヶ所牛伏田鴨黒磯三ヶ所を六村皆大足村と  
たりしと云は村系如平三ヶ所余南八ヶ所余東二ヶ所  
然村加念井おの敷地と限西の池地是村南八田舎村  
三ヶ所備村黒磯村八ヶ所生木野下の敷地と境と以系  
西小山の山り向く人家あり  
定戸石 水入の石完戸への往來は開けり加念井  
と限は此村池地是も通れ  
石塚の石完戸杉樹師の往來ありつけり

此村は村と雖も田舎に過ぐ

瑞井組 三ヶ所村 戸九八  
水戸近重

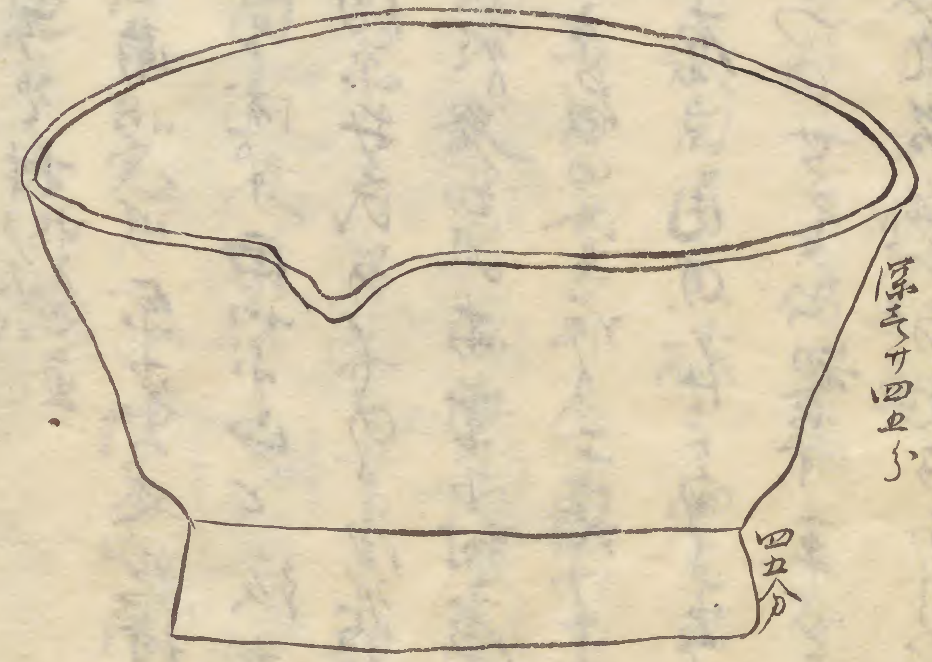
此村東西十五所余南八ヶ所余東二ヶ所然村谷津西八本  
葉下南ハ谷津と流す西小山と後より人家あり  
古磁器 元江河系井氏なるもの御後よりゆきは是  
分磁器破尾の形多む此本葉下村慶長二年拾地帳  
に記せしと云ふ島の字あり干地より純のわけ或ハ  
此の目をも河原の尾のしりし出村民のみは  
と云くしつこの世を智恵事と云ふは此の  
見やきと云ふ橋を皆此代のためなり其基礎の



中川

素やむミテ尾ノ如シ  
膚ナメラカナラズ

細目ナリ



深クサ四五分

四五分

沼井但

ありつ井  
木葉下村  
戸九三三三  
水戸近三里

此村東西三十二所東南十八所  
 北金河也又惣西南  
 ハ地也迄於房山の下より  
 敬神と云り此下古内  
 阿波の川に流す四面を  
 之と云り人家の山  
 澤原也  
 香取の神古棟礼子  
 大石家次郎  
 佐竹氏捨地帳  
 地帳慶長三年  
 とありて上中下  
 所黒石三所印あり  
 又此捨地帳  
 肝煎政不  
 印文  
 薩使  
 政不  
 肝煎  
 初行不



時沙遣民と詔し和を及べたり 拾遺帳首尾より多し  
以て巻といふ山河り昔の和寺権頂御所の時と書  
物よりとと死す戸と理しあると云は山と云ふ  
と云ふ

金山詳 佐布氏領地の時勢金とありありと  
云ゆる般若寺といふ佛宇と建く日く大般若と經  
論たりと云傳ふ般若堂の政とて礎石とあり  
其は色の子を般若寺といふ長三年 拾遺帳も  
は字あり又元祿中水入義松とありと云ふ金山詳  
は金山祝白河りあ海嶺の川も車ゆといふふ何れ金祝

印を比まきありと云ふは

古朝房山 地を造ふある山と大朝房と云は村も古  
と云ふと古朝房と云は村と云ふと古と云ふと云ふと  
ま山と云ふと地を造の山と云ふと東海美祿の目南と  
あり四方野望の地と云ふと云ふと云ふと大朝房  
と云ふと大少と云ふと云ふと

完天 金河中より村の内の澤倉政と云ふと地を造  
と云ふ

古河川 地を造く古河川と云砥山の事とあ飯の事と  
ありれ金河中より別入中川の事あり



砥石の河と云ふより砥石をさすも有りみるに云ふ

月山誌

砥石防上左 長一里五所余を其人余々三人余近あり其

係五年築く谷序三つ也本系下三村の南あり

今上芝地と改けし砥石の志と防きし今ハ石

のそ存し芝地の度也

治开但 大橋村 元九十三 水近四里

此村東ハ二里子南ハ十一所余東ハ地理道と下月のある

渡山西ハ谷田村福田村南ハ福田地理道の北北上下

古田少務村大畑村と改りて地と人家の名の常八田宿

洞窟といふ河うた名ふと云く修す山林原を多し鹿

安二年御作義馬の遺物に即河西部の目石橋に平月

能人伝を改り

三河内 左田石橋宿より三河内北野宿下教師の館

来也福田宿に傍あり是地東水に領と記し地

理地境有り是地北水入地と記す

ひぬ川 源三河内領三端村より田々又佃分年福田

下流上又三河内元の水より小鶴村より佃分

流よりひぬ川と呼ぶ川を修す也云有り

森宿 昔森氏のもの有りその系圖と理地ありと云



今久弟と云ふのう海也又近波塚河の取と云  
らる

今より河と云ふは入と云ふは河の何時よりと云  
ふる

古藤 河の北と河の南と云ふは守と云ふはと云

孝子成り 又と作ると云形河郡下幸田村古藤と云

このふれられたり初古藤河の遊放せり下

新田鳥琴村山伏河沈の下男と云ふ又と云と云

通と云ふは出奔と云ふは其母と云ふと云

恨より作ると云ふは殺せ延享二年九月十九日の事

也時小作りの事はや三十一歳成り十二歳才古藤河と云

三人ふれはき送ね骨髄小撒一書はや河の取と云

と云ふ三人の件と云ふは一は取りと云ふはと云

の所方回心是れと云ふは武蔵と云ふは河の取

と云ふは送ねと云ふは取れと云ふは河の取

是れ十九才と云ふは病死せり河の取河の取と云

と云ふは取れと云ふは二年の事は河の取河の取

河の取河の取と云ふは河の取河の取と云

昔も天母成りと云ふは河の取河の取と云

河の取河の取と云ふは河の取河の取と云







ふより河より又藤安三年佐竹義馬の讓地より  
藤原朝河西掛見守村とあれ共後之より佐竹  
朝之之より川の比近寺ありや之より久村  
名より一き取護年格為年と橋り可より  
小掛村又曰

日光乃 水戸より先への往基之橋井分この村を  
王下古内と通れ

定戸乃 上長山山村と稱く大橋が室なる也

古懸 平野の比と云ふより少御河谷村の山の上小橋十  
百長平なるもの平地河上之人を造くく叟伯者

身の安否と云ふ仙傳守の兄弟より少御河谷村  
王下比新道より古内の時分 今在古川村と云ふ小川原に  
五戸と云ふの七十五人令神 取付の神樂之を  
一と云ふ佐竹守の信保よりけき浮山と歌く中泉  
と村よりと云ふの常より佐竹家のむしり  
河と河よりと云ふの河に一本取 今在古川村より東に  
河と云ふより古内の久保より河つ西より河つ東  
ハ佐竹守より河よりと云ふの河に一本取と云ふ  
と河と云ふ鬼ぬ川と云ふの河に一本取と云ふ  
ゆりもや云ふ



傳傳 之傳子以年信云ふるもの一字一石の信華はと書

一 信乃る信乃る天真其後信乃正曆寺の岡山と云

信乃信 上少部村 元九十五

此村東西二十所余南に六所余東に沖田下少部西に上高

下少部南に下少部の田と云ふ人家の南に田所と云

り少部の田又山と云ふ信乃信乃山を多くと云と云

の慶長七年の比ありし 新神事多凡の祝詞と

と云し傳入たる古書に権を中乃於志美給寶物は又馬

千足母馬千足雜馬千足合而三千足八尺杖帶五人加

津良八元形乃唐の棧中坂山の神葉に指添持又參禱と

あり下少部の信乃信乃の社に於て神明神の中  
宮ありと云芳の世社に於て神乃信乃の祀ありと云  
今施してありと云さるる前の祝詞も合して  
か少部の名も久しき事と云はたり

得倉 村用意形得倉と云

得倉 下少部村 元九四

此村東西二十所余南に六所余東に上高下少部西に上高

南に下少部の田と云ふ人家の西東十五所ありとのる

よ南向あり南に山と云ふ信乃信乃山を多く

村の信乃に信乃信乃の社あり 永正九年 申十二



月前但丁古原新庄高久氏有建之云竹氏は族子  
久氏の御子なりと云由に其官の仲の心算の如き石  
と云て神神とせり

古原 新庄山と云ふ所あり前の田と新庄と云ふ檢  
地帳よりありその以何人のありと云ふ事なく

瑞井領 上吉山村 元号年記  
水入道三十一

竹村東西二十一所余南に二十三所余東に石原西に下中飯  
南に飯野北に中田宗田と隣り人家の田原を挟く南  
山に教寺す地勢平なりと山谷あり國志及平八社  
記ふ吉山の神社神名帳に飯野郡ふありと云の原

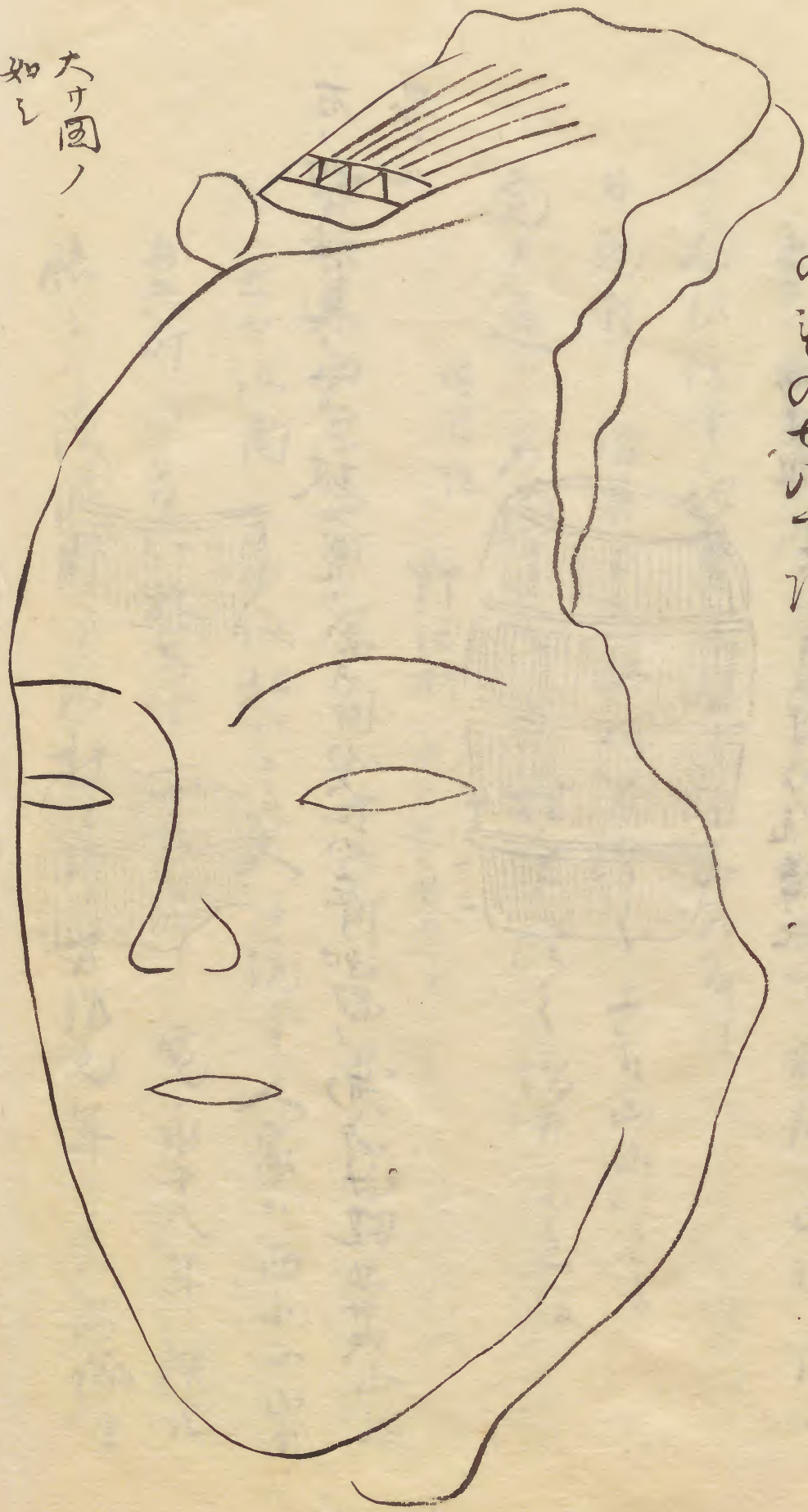
神郡吉山村ありとある又康安二年依布義馬の儀  
依布義馬塔頭柳子院領部西吉山とありと云を  
多中飯は其古七年に飯野の比のりよりな  
る一水元義公石塚より法書寺へまわして今時  
吉山と云

まのえと云ふにみまの山と云ふのえこれの原  
やありと云

日光 瑞井より上下吉山と云ふ膳久原も通る  
石原のこれ村と云ふは膳久原の  
古原 堀のゆと云ふは石原の百三十石余を今も



大イ國ノ  
如し



一、こりりぬきこりりかゝりたる岩不方ニ人  
のいのちの七十八あり

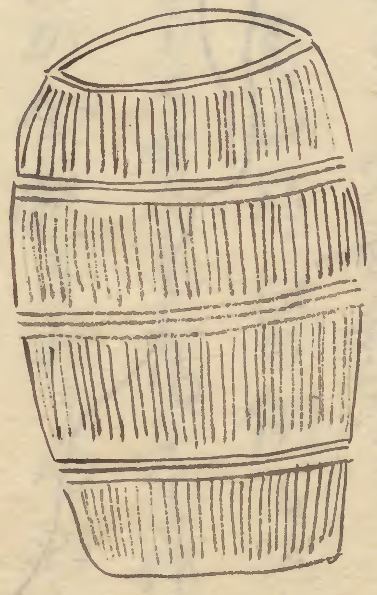
此の石殿と云ふ何れも一傳り一傳形の石殿古墳  
あり一と云ふ定年むきえたる石柳と云ふ中より  
朽つた刀柄出たり柳の石と云ふ所の石と作りし今  
も存あり

祥念 村月 意形 祥念之

古尾人記 喜山 郊社の側より古塚あり一七十年お  
一農又石と穿く尾と云ふ作りし古塚形と云ふ  
その後右の全體ありんやと穿りおとすも好す  
尾骨のすこ破道たりと物成たりと墳上木柵柵  
形あり一墳中ハ岩或ハ石と云ふ所のあり也喜保不



右如古尾ノ寸ニ破レタラウキアハスレハ左ノ如クノ形ヲナセカトモ  
思ハル



傍井組 下長山村 戸九三子七  
水戸道三里

此村東西十尺所 東南北三十八尺所 東ハ石塚傍井西ハ

上長山勝名原南ハ傍井破産北ハ石塚多壊す人  
家ハ西東十尺所ノ尺に散在す前後ハ山河ノ南ハ  
向ハ信守地勢平リト山有リ  
日光石 傍井より此村と雖も上長山小い  
完戸道 石塚より此村と雖も傍井あり

傍井組 野田村 戸九三子七  
水戸道三里

此村東西二十尺所 東南北十六尺所 東ハ山田上長山也  
ハ上ハ坂南下少坂北ハ久多院す人家ハ西ハ山有  
五三所ノ尺に散在す山あり 寛永十八年 検見  
張ハ石塚那中田村と阿万治元年ハ石塚



田村と社一寛文五年の比より西は田村と社は是  
ハ水戸郡中田と社を村一なる事なり

御所山 寺の山なりその頂は岩を峻くして割成

せり如く山より登れば四方を道と云く一日

のうらふありたぐひるき風景あり人々田の所

登山と唱ふ頂きに雌雄一振ある老杉あり其の松

と社一四方に枝をたどりつゝさき樹也

古蹟 依布家長八陽信了寺と云者所と云林向ふ

して中庭悪草多しと社を云是なりと云

野村 戸九七子也  
水戸通事所

此村東西十二町南十八町西六町觀世音寺東南ハ山方

久す北ハ岩社と程下宿澤と澤人家あり其地

形平より山林系也一寛永十八年檢地之時

の村より岩社觀世音寺と云く別村也

田流河りきせり山村と云く此方ハ流る杜澤の上流

なり

古蹟 寺あり古蹟之代々の墳墓ありと云

古蹟 依布氏の族少ゆ大山の系譜并全砂録記述と

考ふ所ハ山岡楊守文及二子河り長と云義景と云次と

義定と云義景多病なり同く海根所長なりと云



茂定の子長一男一女あり男義成女ハ依布義治の  
 室也延徳二年義治死其子義成の時山又義成の子  
 氏義あり自之を起し江戸但馬吉原と義成と  
 戦ふんと謀り義成之れを知り所へ逃と出く志  
 保ふ奔る翌日吉原を捨て大山ふりて外社又大山を  
 長おの斗ししと孫根の城へ逃入る時山入氏義孫  
 根お事り事と急なり少湯原にお死す義成孫  
 根お石成元十三年明應六年全破東法寺と平  
 陣と山入を刀殺し氏義の首と獲たりとありされ  
 への難大い及た難きその子義成ありて後義成十

三年つりて糸原館度なりとあり

古書一通

糸原の事氏持傳は糸原の事あり記伊

新室公の片之日経又十中何人なりや忘れ

紙 孫の戦とて千ヨコヨ半紙と編り名あり

山交しと儀<sup>之</sup>自<sup>之</sup>所<sup>之</sup>實し不  
 実<sup>之</sup>儀<sup>之</sup>仕し如<sup>之</sup>我<sup>之</sup>衆<sup>之</sup>所<sup>之</sup>存<sup>之</sup>何<sup>之</sup>疑  
 衆<sup>之</sup>を<sup>之</sup>孫<sup>之</sup>と<sup>之</sup>傳<sup>之</sup>て<sup>之</sup>何<sup>之</sup>疑<sup>之</sup>め<sup>之</sup>安<sup>之</sup>く<sup>之</sup>と<sup>之</sup>也  
 乃<sup>之</sup>傳<sup>之</sup>る<sup>之</sup>礼<sup>之</sup>多<sup>之</sup>し<sup>之</sup>并<sup>之</sup>死<sup>之</sup>し



道是之穢け方十九名也

三ノノ

多ノノ

新法書

日種

みす

河井組

岩多村 元九三十八  
水入道

北村東西一里江所南十五所東一多極下穴澤西六赤澤下  
勢島南觀世音孫根と院す氏元和系河り地形を之山  
亦咳一空谷喉地多一神名集小形河郡岩中社  
河れい心くうまは色岩多と一と孫根と属一たり  
と之也寛永捨地の時より別村を

河り

河井組

觀世音村 元九十九  
水入道

北村東西一里江所南十五所西八伊勢島南八二名也水八岩多系



ハ孫極ハ瀧ハ武ハ敬ハ三ハ山ハ谷ハ至ハ多ハリハ古ハ方ハ以ハ道ハとハ觀ハをハ  
とハ呼ハびハ為ハるハ孫ハ極ハとハありハとハ山ハ村ハのハ内ハ岩ハ壁ハ一ハのハ石ハ  
窟ハありハ方ハ六ハ人ハはハくハ中ハ小ハ十一ハ面ハ觀ハをハとハ彫ハ付ハくハ徳ハ澄ハ上ハ  
人ハのハ刻ハむハとハ云ハ傳ハふハ村ハ名ハとハれハ少ハ部ハとハ云ハ極ハ瀧ハハハ極ハ武ハ  
帝ハのハ時ハにハ傳ハふハとハ延ハ慶ハ申ハ流ハ傳ハとハ聞ハふハとハ云ハ  
敬ハ生ハ 岩ハ多ハとハ極ハ大ハ山ハ方ハ觀ハをハ孫ハ極ハ入ハ今ハのハ敬ハ生ハりハ

坊ハ并ハ傳ハ 上古ハ内ハ村ハ ハ九ハ百ハ七ハ ハ水ハ入ハ延ハ四ハ里ハ也ハ

此ハ村ハ東ハ西ハ一ハ里ハ余ハ南ハ北ハ一ハ里ハ余ハ東ハのハ下ハ古ハ方ハ西ハのハ少ハ橋ハ南ハのハ大ハ橋ハハハ  
とハ傳ハふハ上ハ下ハ少ハ飯ハ多ハ饒ハ寸ハ南ハ北ハ山ハとハ云ハけハくハたハのハ名ハありハ人ハ  
戸ハ何ハりハ山ハ谷ハ原ハ生ハ多ハりハ右ハ古ハ方ハ市ハとハ云ハソハのハ法ハよりハ古ハ内ハ小

改ハ免ハとハ云ハくハくハ康ハ安ハ二ハ年ハ 武ハ馬ハ讓ハ也ハ 和ハ河ハ西ハ古ハ方ハ  
にハ掛ハえハ傳ハ村ハとハ云ハ又ハ法ハ言ハ唐ハ履ハ那ハ砂ハ西ハ古ハ方ハにハ傳ハとハ云ハりハ  
又ハ佐ハ布ハ家ハ中ハのハ系ハ滂ハ小ハ休ハ竹ハ石ハ至ハ又ハ武ハ舞ハのハ子ハ古ハ方ハ孫ハ  
三ハ帝ハ武ハ康ハ具ハ子ハ兵ハ部ハ三ハ又ハ遠ハ江ハ守ハ一ハ溪ハ耕ハとハ河ハれハハハ高ハ時ハ  
法ハ言ハ唐ハ履ハ別ハにハぬハれハとハありハとハ云ハ又ハ也ハ寛ハ永ハ十ハ八ハ年ハ檢ハ地ハ  
のハ時ハよりハ上ハ下ハのハ名ハ起ハりハとハ云ハ也ハ  
日光ハ乃ハ 下ハ古ハ方ハよりハ以ハ地ハ小ハなりハ少ハ橋ハ小ハ道ハ民ハ  
古ハ方ハ川ハ 少ハ橋ハとハ云ハ也ハ 下ハ古ハ方ハ西ハ流ハ入ハ在ハ川ハのハ上ハ流ハ也ハ  
はハ遠ハとハ云ハくハ古ハ方ハ川ハとハ呼ハぶハ

坊ハ并ハ傳ハ 下ハ古ハ方ハ村ハ ハ九ハ百ハ七ハ ハ水ハ入ハ延ハ四ハ里ハ也ハ



此村東西三十町、茶南北一里、拾河原東の破産西の上方南の大橋北、猶免河下中、移小坑に人衆散在す、山あり、水あり

日光石 勝之河村と雖、上方内より

笠岡石 猶免河よりこの町と雖、大橋より

上方川 上方内、安海より、木葉下より、入、此川の上流

あり、此川而す、く、船と産、此川とく、も、此川より、あり

の風味、稍佳也

小山別官碑 法喜寺の内に存り、少く、五輪の石、傍に文字

更、不、光、天、正、八、年、小、山、別、官、信、田、少、右、郎、と、刻、し、別、官、少

原、法、喜、寺、の、善、所、房、と、入、り、之、自、新、也、と、刻、り、と、云、す

況、鏡、一、又、寺、の、小、其、光、法、喜、寺、末、之、壽、福、寺、と、云、り、

此、寺、の、寛、文、中、破、り、也、と、云、り、其、寺、の、小、五、輪、の、石、傍、に

基、有、佐、竹、氏、の、墓、也、と、云、ひ、傳、ふ、と、い、ふ、今、又、字、と、云、

松、年、此、村、上、方、内、の、寺、也、其、寺、の、末、之、壽、福、寺、の、法、喜、

へ、く、松、年、と、産、此、川、へ、出、す、の、町、也、也、の、風味、

稍、佳、也

茶 此、地、流、村、の、原、と、産、此、川、の、上、流、と、此、川、河、神、久、保、と

並、妙、此、村、より、出、す、の、味、尤、良、也

同、村、内、安、海

東西、五、町、余、南、不、予、所、原、東、の、破、産、西、の、上、方、内、南、の、木、葉



下地地辺北<sup>ノ</sup>古月と記す人家古月川のたもと山  
谷原多し

高野組 山崎村 元元百八  
水巻

北村東西三丁所南<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>里<sup>ノ</sup>四丁所余東<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>古月南<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>大橋大畑徳  
花西<sup>ノ</sup>徳花垣子<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>垣子<sup>ノ</sup>千<sup>ノ</sup>石<sup>ノ</sup>不<sup>ノ</sup>傷<sup>ノ</sup>す人家<sup>ノ</sup>在<sup>ノ</sup>す山<sup>ノ</sup>原

多し

日光石 古月<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>あり垣子<sup>ノ</sup>通<sup>ノ</sup>す驛<sup>ノ</sup>あり川の比

より剣<sup>ノ</sup>や<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>く<sup>ノ</sup>す

河原あり垣子<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>徳<sup>ノ</sup>花<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>出<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>金<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>と  
上<sup>ノ</sup>古<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>す入<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>の上<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>也

金<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>穴<sup>ノ</sup> カ<sup>ノ</sup>ツ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>云<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>佐<sup>ノ</sup>井<sup>ノ</sup>氏<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>金<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>に<sup>ノ</sup>穴<sup>ノ</sup>あり

と<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>す<sup>ノ</sup>高<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>に<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>金<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>河<sup>ノ</sup>の

科<sup>ノ</sup>倉<sup>ノ</sup> 村<sup>ノ</sup>用<sup>ノ</sup>意<sup>ノ</sup>給<sup>ノ</sup>科<sup>ノ</sup>倉<sup>ノ</sup>あり

高野組 高野村 元元百十七  
水巻

北村東西<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>里<sup>ノ</sup>古<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>南<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>丁<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>余<sup>ノ</sup>東<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>根<sup>ノ</sup>北<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>久  
南<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>少<sup>ノ</sup>飯<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>古<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>西<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>橋<sup>ノ</sup>垣子<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>親<sup>ノ</sup>世<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>傷<sup>ノ</sup>す人  
家<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>散<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>多<sup>ノ</sup>し

河<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>あり<sup>ノ</sup>栢<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>河<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>垣子<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>出<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>村<sup>ノ</sup>中<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>金<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>

と<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>根<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>傷<sup>ノ</sup>す<sup>ノ</sup>柱<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>あり

古<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>す<sup>ノ</sup>橋<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>原<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>す<sup>ノ</sup>東<sup>ノ</sup>西<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>より<sup>ノ</sup>余<sup>ノ</sup>南<sup>ノ</sup>山<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>丁<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>余<sup>ノ</sup>平







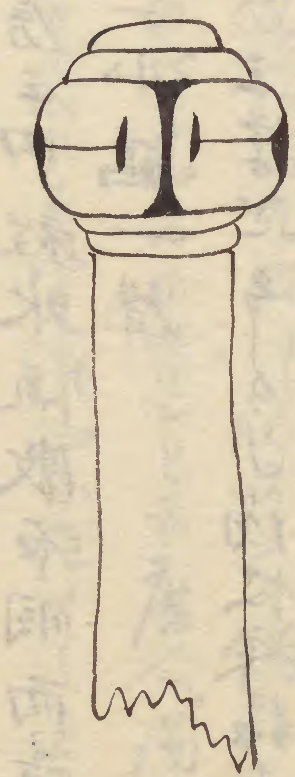
石より作りし圓の如きものと据出り外も刀の  
形あるものあり神徳甚名何人なりや知れぬ

禪念 村用意禪念あり

大々圓如し

表裏トモニ

同し形ナリ



石井組

塩子村

戸凡百三十七  
水戸近六里子

此村東西二里三折余南ハ二里余東ハ小務南ハ小務御石  
西ハ赤澤野州其間郡飯村飯子村相田村小ハ吉栲村  
芳宮 檜山下伊勢良き中少穢す人家あり敬互凡深

山空谷多し地勢高峻十余里と隔く空谷あり

如麻河の石之坪より出く小務小島入庄川の流

なり

日光氏 小務がこの村と雖も他俱相田の通に神を祀

木の神にむく小務塩子と正月に祀すつこの時分臣

や得るなり

祿賜 延宝五年中務河りてこの村の地とあり大山若

孫根祝言を根入令の敬也曠生也谷多し

錫館 佐布の時賜給と有りたりと今亦あり

古旗 佛由寺此門前大具坪と云わふ一農又河り信教



守 守長中佛 文部一とて少き旗とちり傳ふに中社

中の頼もあつたをこのし武田も教守亦武

田の族とつゆ也又信日懐るもの其長七年ふた

期月あり信小印に依分授ふしとあると持傳ふ彼

農文り武田と氏とすれも其の依分の子孫をいひ

武田菱のをもと持るが武田子孫たるも教守が

懐られたる安らうとくも信ふられ又教守甲州が

折系のもり信く ロリモフ 信といふものありとて

柄 此村を信小橋上下古の大橋お出ると信とす法村多

く産の本橋とて信方へ出ると

煙草 此色法村煙草と産は此村がゆゑの凡味稍佳

之進東切符とて江戸へお出

岩谷觀せり 踏のた石の奇石怪岩後年々 杉杉皆蕨糸

流をみるゝ奇麗あり 数百丈の絶壁ありその半後小

の付邊の觀音堂ありまゝに坐するも 勝地也出入閑

東女人を坐すといふ

釋念 村用意釋念あり

# 維大明神

大十國ノ  
如シ





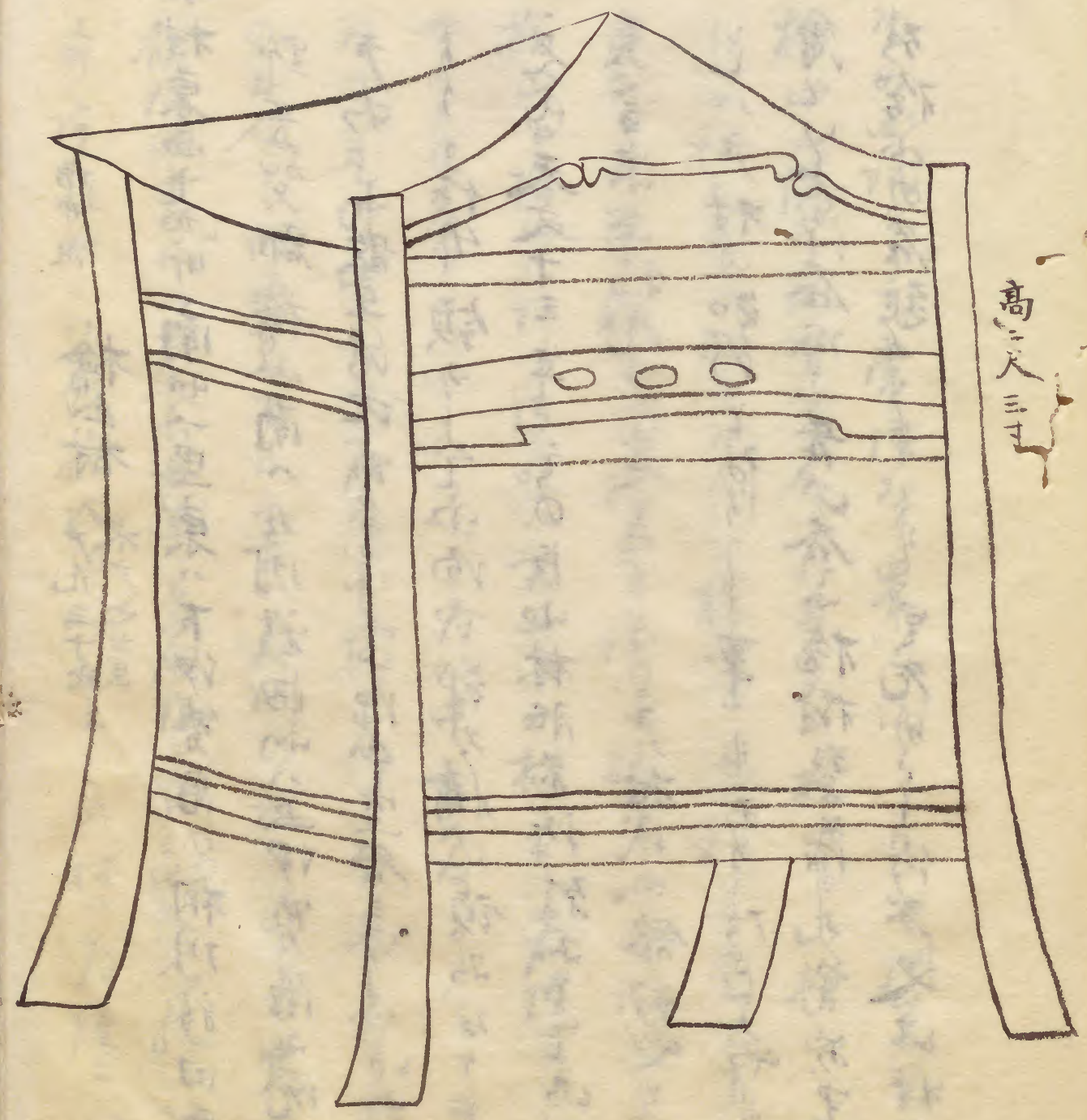
年頭天王  
 皇太神  
 利支尊天  
 別三所権現

ツレハ子リ  
 ノ如クナリ



高ニ尺三寸

小刀細ク  
 如ク見ユ



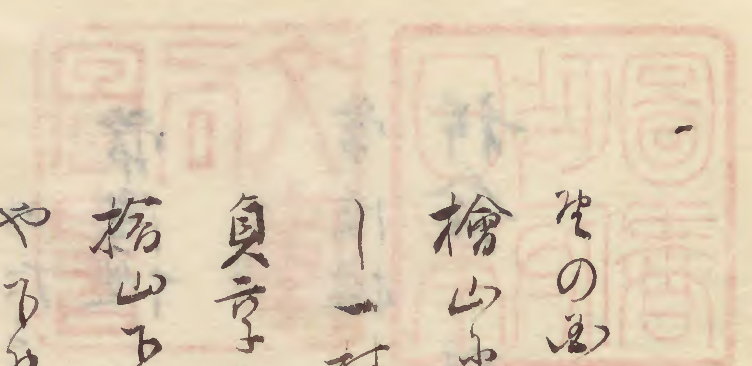


堀井組

檜山村

戸凡三十七  
水産近七里

此村東西十五町南一里東六下伊勢高の相川新田西八下  
 野芳賀郡檜山南ハ五川新田ハ五伊勢高ハ境す氏  
 戸ハハ散立ハ地勢ナリテ深山空谷多クソツの比  
 入り依竹領ナリテ山内或部を備の領ありナリト  
 又由天文十三年この長小林肥前新野トシ此村ハ  
 志言宗正福院ト建立すナリ戸村氏の館院トシテ  
 此ハ戸村の知事トありナリ事ハありナリヤリ谷  
 河トシハ深谷河ノ昔ハ谷ハ檜村繁茂トシテあり  
 此檜山の名起リトシテ里光リテ伊ハ又ハ村ハ下



此の地境ナリテ常陸守ノ界ト境ナリテ伊州若狭郡  
 檜山ハ深谷河ノ地勢ト見ナリ芳賀の檜山ハ以檜山トむ  
 一ノ村ト見ナリ伊州の檜山ト云ト種ト是トナリト云  
 貞享三年秋伊州檜山ト境ト檜一町の記文トモ上  
 檜山下檜山ト稱ナリ此ハ古上下一ノ村トシテ為境ナリ  
 ヤリ地ありナリヤ多クナリ中古ナリトナリニ村ト  
 ナリその中分ナリ地境トありナリヤ多クハニ村  
 の中人ト稱ナリ上下ハ古ハ伊州の地ありト云寛文寺  
 社名の書付ハ長七年多向江ノ南ハ後ノ檜山トシテ  
 ナリ河ハハ公儀檜山の町ト云この村ハ古伊州入リ



りといふなり

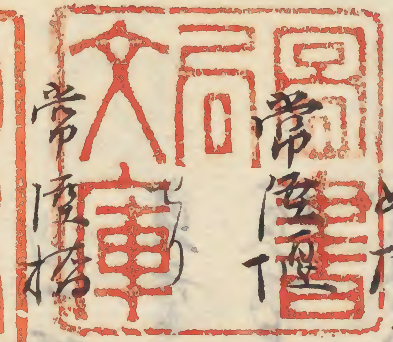
元村十支店址 今蓋山のうらにあり 又按ふに地四方小

山阿るる部阿川ふり也く飯本領も界は是境る

取衛復のため一擲と構へ少向元村の三家よりくる

めたるりもあし

下生其の部捨山の地よりして以村の用水と云



常陸守

村用意於祥念あり

下生其の部捨山芳野郡とは村々落蔵郡あり其の境より

上捨山と云 下捨山と云 あり其の境より



日と云ふなり

天柱寺文書に 今堂のりともはあり 人按ては此中

山寺に本郡河川にて進み 南無阿弥陀仏の寺あり

取南復のたれ一和と稱ふ山内入村の寺あり

此の寺に志すなり

百生寺の天郡松山の地ありて 以て此の用事と云

下屋の行山にありて 此の寺にありて ありてあり

持念の用 意は持念あり





